

広島女学院中学校

入試科目	算数	国語	理科	社会	総合
試験時間	50分	50分	あわせて50分		
配点	120点	120点	50点	50点	340点
受験者平均点	64.2点	71.7点	29.1点	33.8点	198.8点
合格者平均点	72.6点	77.0点	32.2点	36.4点	218.3点

算 数

1	計算問題	(1)四則計算	(2)小数の四則計算	(3)分数と小数の四則計算	(4)逆算	
2	一行問題	(1)割合	(2)植木算	(3)ニュートン算	(4)場合の数	(5)日暦算
3	図形問題	(1)角度	(2)面積	(3)図形の移動	(4)容器と水量	
4	旅人算	小問数2	5	周期算	小問数3	

今年度も例年通りの問題数でした。

1は計算問題です。昨年の出題から1題減った4題の出題です。難易度に大きな変化はなく、丁寧に計算できるかどうか問われています。

(2)は $\frac{5}{13}$ を $\frac{1}{13} \times 5$ に変えてから結合法則で計算をするということに気付くことができればすぐに解ける問題です。(4)の逆算の問題は小数と分数が混ざっており、日頃からの計算力が問われる問題でした。1を解くためには(2)のような問題も出題されるため普段から工夫を意識しながら計算練習をしておくことが大切です。

2は一行問題です。昨年と同様5題です。(4)以外は中学受験の学習

の中でよく出題される典型的な問題だったため、正答率は高かったと予想できます。(4)は場合の数の問題です。4つの異なる整数を組み合わせで分数を2つ作る問題です。条件を満たすのが、作れる分数のちょうど半分ということに気付かれるかどうかポイントです。

3は例年と同様に図形の小問集合です。(1)は外角の定理を使って角度を求める問題です。(2)は面積の問題です。補助線を引いて等積変形を行い、面積を求めます。(3)は図形の回転移動の問題です。丁寧に作図をすれば正解を導きやすい問題でした。(4)は容器と水量の問題です。底面積が変わるごとに体積や高さを求める必要があります。3は昨年と同様に中学受験で学習する典型的な問題が多く出題されていました。し

っかり演習をしていた受験生は正解できる問題が多かったのではないで
しょうか。

④は旅人算の問題です。円形のランニングコースの真反対の位置にい
る二人がそれぞれ一定の速さで移動する問題です。(2)の②までは旅
人算の基本的な問題だったため、しっかり演習をしていた受験生は対応
できた問題でしょう。③の問題はツル子さんが1周するのにかかる時間
が22分30秒なので、2周するのにかかる時間の45分とカメ太くんが1
周するのにかかる時間の18分の最小公倍数を求めます。

⑤は白と黒の石が並んでいる周期算の問題です。(1)は基本的な周期
算の問題になります。(2)は不規則な位置に赤石を2個入れる問題で
す。なかなか見ない問題で戸惑った受験生も多かったと思います。さら

に、15組目の周期の最後に並んでいる黒石は除かないといけないので難
易度がぐっとあがっています。(3)は5の倍数番目の石を取り出し、
残った白石の数を問われています。石が7個周期で、取り出すのが5個
周期なので35個周期で考える必要があります。5番目、10番目・・・30
番目に白石が何個あるかを調べないといけません。いくつかの段階を踏
まないと正答できない問題になっています。

広島女学院中学校の入試問題では④や⑤のように、粘り強い思考力や
丁寧に書き出す力を要求される問題もあるものの、基本から標準の典型
的な問題が多く出題されています。そのため、しっかり演習を行うこと
で対応できるように日頃から取り組んでいきましょう。

国語

一 小川明子 『ケアする声のメディア ホスピタルラジオという希望』	(説明文 約3700字 小問数9 うち記述1問)
二 伊集院静 「雨上がり」『冬のはなびら』	(物語文 約5900字 小問数12 うち記述3問)
三 漢字の読み取り・書き取り	(小問数10 書き取り8問 読み取り2問)
四 ことわざ	(小問数6)

今年度も大問4題の構成でした。大問一に説明的文章、大問二に文学
的文章、大問三と四に漢字・語句となっており、問題構成に大きな変化
はありませんでした。小問数にも大きな変化はありません。

広島女学院中学校の入試問題は文章の文字数が多いという大きな特徴
がありますが、昨年度の約11000文字から、今年度は約9600文字と少な
くなっています。それでも文字数は多く、内容も少々難易度の高いもの
になっているため、やはり限られた時間内で長い文章を丁寧に、かつ正
確に読み取る力に加え、文章を読む速さ、問題を解く速さも求められて
います。

それでは大問ごとに見ていきます。大問三の漢字の問題は昨年度に比

べ易化傾向がみられました。「宗派」など、漢字そのものは難しくはな
いが、意味が難しく語彙力が求められる漢字の書き取りが出題されてい
ます。昨年度出題された、「門戸」の読み方などと比べて難易度の高い
問題の数は減っています。対策として、単純に漢字を覚えるだけでなく、
漢字の意味も含めてしっかりと覚えておく必要があります。

大問一は説明文。出典は小川明子氏の『ケアする声のメディア ホス
ピタルラジオという希望』でした。普段聞きなれない言葉、特に外来語
が多く使われており、上手く注釈を利用して読み進める必要があります。
設問は、9問のうち6問が説明されている内容を問う問題となっていま
した。毎年ではありませんが、頻出されていた指示語の内容を問う問題

や、接続語の穴埋め問題、語句の意味を問う問題はありませんでした。例年に比べ出題傾向は内容理解に大きく偏っています。しかし、文章を読み進めながら、問題を解いていくことによって、文章の内容理解を深めていき、最後の設問で筆者の主張を問うという出題形式は踏襲されていました。

大問二の出典は、伊集院静氏の「雨上がり」。『冬のはなびら』という短編集に所収されている、不器用で無口な少年が経師職人としての修業生活をしている様子を綴った物語です。今年度も、複数の場면을切り取る形で出題されており、今年度は【場面1】～【場面4】の4つに分かれています。昨年度と異なり全く違う場面に飛び、前の場面と後の場面のつながりがないため、場面が変わる度に場面の把握をし直す必要がありました。

設問は心情の読み取りを中心に、言葉の意味、指示語の内容、比喻表現の読解。様々な設問がバランスよく出題されています。

読解の難易度は高く、4つに分かれている各場面の時間・場所・人物・出来事を正確に抑え、各場面に登場している人物の心情とその理由、その両方の根拠を考えながら丁寧に読み取っていくことが大切です。

昨年度に比べて記述問題が増えましたが、記号選択問題と書き抜き問題の重要度が大きいのは今まで通りです。正確に文章の内容を読み取り、理解し、選択肢を吟味する力に加え、速さも求められることは変わりありません。まず本文を丁寧に読むこと、そして記号選択問題においては、なぜその選択肢が正解になるのか、他の選択肢はなぜ違うのかということを考えながら今後の学習に取り組みましょう。

理 科

- | | |
|---|--------------------------------------|
| 1 | 地学分野から、月の満ち欠けと潮の満ち干き に関する問題 小問数 7 |
| 2 | 生物分野から、クマの生息域と体の大きさ に関する問題 小問数10 |
| 3 | 化学分野から、水溶液の性質・対流・ろ過の作図の化学 小問集合 小問数 3 |
| 4 | 化学分野から、銅の燃焼とその計算問題 小問数 4 |
| 5 | 物理分野から、てこのはたらきを利用した道具 に関する問題 小問数 7 |

ここ数年の広島女学院中の理科の入試問題を見てみると、大問数は6題になっていましたが、今年は5題でした。ただし小問数は30題程度で、物理・化学・生物・地学から偏りなく出題されているという状況は同じでした。近年、科学に関する時事問題が出題されていましたが、今年はありませんでした。

1 月に関する問題で、わずか小問7問の中に、月の満ち欠けの典型的な問題に始まり、潮の満ち引きから潮干狩りに適した日時を推測する思考問題まで盛り込まれた内容になっています。（1）は月の公転方向

と月食の仕組みに関する正誤問題、（2）は月の形と方角から時刻を推測する問題で、確実に得点したいところです。（3）は潮の満ち干きに関する問題で、特別な知識を持っていなくても【調べたこと】をしっかり読んで理解できれば解答できるようになっています。全体的に難易度はそれほど高くはなく、学習の定着度をはかる良い問題になっています。

2 前半は植物や人体に関する基本的な知識を問う問題ですが、ジャガイモが地下の茎であることや肝臓が消化液（胆汁）を分泌していることなど、知識の定着が不十分だと苦戦しかねない問題になっています。

後半は寒い地域ほどクマの大きさが大きくなることに関する問題でした。いわゆるベルクマンの法則に基づく問題ですが、そんなことは知らなくても資料や会話文をきちんと読み取ることができれば解答できるようになっています。知らないことが出てきても、落ち着いて問題を読む練習をしておきたいものです。

③ 水溶液の性質を問う問題、対流の仕組みを問う問題、ろ過装置の作図問題でいずれも基本的な知識を問う内容でした。作図は慣れていない受験生には少し難しかったかもしれません。

④ 銅と酸素が結びつく反応に関する問題でした。(1)は酸化銅の重さから結びついた酸素の重さを計算しグラフに書く問題で、縦軸の数値を自分で設定する必要があります。(2)～(4)は反応する銅と酸

素と酸化銅の重さの比に関する計算問題でした。特に(4)は未反応の銅の重さを求める問題で難易度は高めになっています。

⑤ (1)てこを利用した道具の支点・力点・作用点の距離に関する問題でした。(2)実験用てこについての問題で、問2を解答するには、力点(右側)におもりをつり下げるパターンを場合分けして丁寧に書き出す必要があります、苦戦した受験生も多かったのではないのでしょうか。(3)てこの典型的な計算問題で、多くの受験生にとっては取り組みやすかったと思われます。

同校の対策としては受験理科の各単元を丁寧に復習すること、過去問演習の中で、問題解法の技術を身につけて定着させることが必要です。また今年は出題されませんでした。近年、科学の時事問題が出題されているので注意しておきましょう。

社 会

① 《地理》 山口県やその周辺の地域について地理総合問題 小問数 8

② 《歴史/公民》 時代ごとの国や地方の政治のしくみや、そのもとで生活する民衆の行動に関する総合問題 小問数 10

広島女学院中学校の社会は試験時間 50 分(理社合計)・配点 50 点です。問題構成は大問 2 つ。問題数は 20 問程度。難易度は「易」。また他校に比べると、公民分野からの出題がかなり少ないです。

1 山口県やその周辺の地域について地理総合問題

(1)都道府県名を答えさせる問題。(2)資源名を答える問題。【カード】内の『セメント産業』や『日本で…自給が可能な資源』から石灰石を導きます。(3)世界地図から該当する国を選択する問題。(5)地図上を【日記】に記されたとおりに移動した場合に通った橋を選択する問題など答えやすいものです。(6)鉄道を利用したときの所要時間や距離・運賃について表したグラフを用いての記号選択。(7)山口県の 1 人あたりの国民医療費が全国でも高い理由を、資料を用いて説明する論述問題。(6)・(7)に関しては問題文の注釈をきちんと踏まえたうえで解答したかどうか、ポイントになります。

2 時代ごとの国や地方の政治のしくみや、そのもとで生活する民衆の行動に関する総合問題。

公民分野といっても、今年度は(6)問3の「インターネットが選挙に与える影響について」の問題1問だけです。昨年も出題は1問だけでした。(1)古墳時代についての問題。(2)8世紀の律令政治下における重税に苦しみ逃亡する農民が増えていたことを資料から読み取って説明する問題。(3)10～11世紀に関しての地方社会の変化についての正誤問題。(4)源頼朝と織田信長の、それぞれ活躍していた様子を選択する問題。(5)豊臣秀吉の兵農分離のためにおこなった政策を答える問題や江戸時代の民衆の統制についての正誤問題。(6)大日本帝国憲法の内容をまとめたものを憲法案と区別して判断する問題。日中戦争が行われたころの政治についての正誤問題。

問題数が少ないこともあり、基礎的な知識を定着しておけば、十分対

応できたはずです。

【広島女学院中学校「合格のカギ」】

1 教科書に忠実な知識を定着する。

難問奇問が出ない分、いかに教科書レベルの内容をきっちりと正確に押さえているかが大事になります。また、教科書で見たことのない初見の問題においても、注釈に必ずヒントがあるので見落とさない。

2 地名や人名といった語句は漢字で正確に書けるようにする。
特に教科書の太字で書かれている単語は必須です。

3 地図帳や資料集を活用する。

外国の位置や名前など常に地図帳で確認しましょう。またビジュアル史料を確認しておく迅速に問題が解けるようになります。